

さいたま市障害者社会参加推進センターだより



ぱらネット

第19号



▲さいたま市のマスコット つなが竜ヌウと並んでごきげんの肢体不自由児者父母の会の会澤さんと金野さん。中で汗をかいているのは障害福祉課の職員か、ボランティアの高校生かな？

▼右からさいたま市青木保健福祉局長、広野さん、水谷さん、木村さん、浅輪会長



障害を
生きることのさまたげに
しないことを願って

平成22年度「障害者週間」市民の集い

平成二十二年十一月二十八日 与野本町コミュニティセンター

心の輪を広げる障害者 理解促進事業表彰式

毎年やさしいほほえみを送ってくれる「心の輪を広げる障害者理解促進事業」の表彰。ポスター小学生の部の水谷真菜さん、中学生の部の広野理奈さん。作文の部の木村りりさん(中三)にあたたかい拍手が続きました。

盲導犬が教えてくれた幸せの二原則 珍道中の人生で見つけた幸せ!!

記念講演 水出智津氏と盲導犬ユザ

生き生きとした姿に 励まされて

さいたま市視覚障害者協会

藤崎 明美

私と同じ視覚障害者の水出さんの講演では、見えないうえでの子育ての苦労・工夫・周囲とのコミュニケーションなど、もがきながらも前向きに切り開い

て行こうとする生き生きとした姿に励まされる思いでした。

障害のある親の元で育った子どもたちは、親をどう思うので

しょうか？恥ずかしい？人に知られたくない？それとも心の広い子？親の生きる姿勢が子の心に大きく影響すると思うのです。そして、その親の姿は表情からもうかがうことができま

す。水出さんは、明るく元気いっぱいな感じでした。私の表情はどう見えるのでしょうか？体験コーナーで書いて頂



いた私の似顔絵を見てくれた人は皆ニッコリしてくれました。水出さんの明るく前向きなお話、私ののんきそうな似顔絵が少しでも家族や周囲に元気をもたらしたり温かい気持ちになつてくれたら、障害があつたつて「へいきよ」って思えた記念事業でした。

感動の全国障害者

スポーツ大会

さいたま市身体障害者福祉協会

田口秀之助

平成二十二年十月二十三日、二十五日「第一〇回全国障害者スポーツ大会」(ゆめ半島千葉大会)が開催されました。

さいたま市から陸上、卓球、フライングディスク、アーチェリー、水泳、ボウリングなど、二十六名の選手が参加。

全然スポーツに縁のない私が選手団団長という立場です。

市の担当職員、監督コーチ、千葉の担当職員の方々、朝早くか



ら選手の世話、スケジュールの調整に夜遅くまで取り組んでいただきました。頭がさがります。

選手の活動も目覚ましく、金メダル四個、銀十個、銅十個の素晴らしい成績でした。

惜しくも入賞を逃がした選手も本当に頑張りました。

選手のひとりに「団長、メダル掛けてみる？重いよ。家に七個もあるよ」

ウーン重い。うらやましい！

みんなで楽しもう・音楽芸能

楽しんでくださって ありがとうございます

この間は演奏させていただきました、ありがとうございます。テスト週間後ということもあり、あまり練習できなかったの



で、お聴き苦しいところもあったかと思いますが楽しく聴いていただき、ありがとうございます。した。

また、「Ring・a・Ding・Donng」では、曲に合わせた手拍子をしてくださり、私たちも気持ちよく演奏させていただきましたことができました。

「Beautiful days」では、私たちと一緒に曲に合わせて、のってください、とても嬉しかったです。終わりになった頃、お客さんの方々が「アンコール！ アンコール！」と言ってください、コミュニティセンターでたくさんの人たちが、楽しんで聴いてくださったんだと、実感することができました。私たちでも、聴いてくださる方々に、元気を与えることができるんだと思い、また、このような機会があったら、演奏させていただきたいと思いま

た。

さいたま市障害者協議会の方々、ありがとうございます。

さいたま市立大原中学校

吹奏楽部部員一同

音楽好きが集まって……

元氣工房バンド

「シナプス」

支援員 関永健太郎

元氣工房は中央区にある小さな事業所で、主な作業は病院や老人ホームの清掃です。

作業は大変なこともあります。作業は週一回の自己実現活動の取り組みで、音楽好きのメンバーに職員が加わって元氣工房バンド「シナプス」を結成し、市民のつどいが初めての舞台発表となりました。

前日に会場に下見に行きましたが、赤いじゅうたんを敷いた舞台と広い会場に、支援員は緊張で胸がドキドキ。

バンドのメンバーは、仕事の合間、お昼の休憩時間などを使



って数週間前から練習を積み重ねてきましたが、当日は楽器のセッティングの時に故障が起こったりして、慣れないステージに乗り切れないうちに終わってしまいました。

終わって支援員が意気消沈していたとき、メンバーの「とても楽しかったよ。また演奏したいね」という言葉に励まされました。

いつかまた舞台に立たせていただいで、リベンジしたいと思っています。

聴覚障害者の芸能活動

牧野 悦子

聴覚障害者には聞こえないことからくる能力が三つあると言われています。一つ目は、視覚的感受性が鋭敏であること。聞こえる人とは違った角度から物事を捉えていくため独特の個性が生まれるので、美術・写真の分野で活躍する人がいます。二つ目は概して手先が器用であること。手話が日常のコミュニケーションの手段であるため、手指をいつも動かすので、微妙な手指の動きもコントロールできることもあり、工芸・手芸等の分野で活躍する人がいます。三

つ目は表情や身振りによる表現が豊かであること。相手に訴えたいことを表情や身振りを駆使して伝えることが習慣化しているので、相手に分かりやすい視覚的な訴え方が自然に身に付いていると言われています。演劇のジャンルはこれら三つの特質を総合した能力が必要なので、聴覚障害者にとって一番取り組みやすく、歴史も古いのです。(障害者文化芸術振興に関する実証的研究事業報告より抜粋)

聴覚障害者は手話・口話・筆談等をコミュニケーション手段としていますが、日常生活の中で手話をコミュニケーション手段としてしている人達にとって、手話は人間として生きるために必要な大切な言葉です。その手話は、動物的であると蔑視され続けた時代があ



手話落語「聾坊」大喰亭満腹さん
(声) 道楽亭遊坊さん

ドラマが放映されたことで、手話に対する蔑視が軽減されていったように感じます。

このような社会的情勢の中、各地にろう者劇団が誕生していきました。現在では全国に多数のろう者劇団が存在し、活動しています。また、手話演劇だけでなく、手話狂言、手話落語、パントマイム、太鼓など幅広い活動を展開しています。手話演劇は手話通訳が付くものと付かないものがありますが、手話が分からない健聴者の方々にも十分楽しんで頂けるものです。

今年2月、障害者社会参加促進事業として、第一線で演劇活動をされている砂田アトム氏をお招きします。手話の持つ魅力を感じて頂くと共に、聴覚障害に対する正しい理解が広がることを願っています。

さいたま市聴覚障害者協会理事

聴覚に障害がある人の手話落語とパントマイムは初めて見た人に新鮮な感動を与えました



積み上げてきても まだまだ：

反省点いっぱいの実行委員会

暑かった夏の真っ盛りのところから、平成二十二年度の障害者週間市民のつどい実行委員会は始まりました。

秋風が吹くころには全体像が固まったとはいえ、何回やっても「準備は万全」という感覚は持ち得ず、小さな不安を幾つか抱えたまま当日を迎えました。

式典

市長が欠席となり、福祉局長に列席していただきました。写真撮影に時間がかかるなど、スタートから時間のずれがかなり見られました。

記念講演

水出さんは視覚障害の方です。コミュニケーションの取り方について、打ち合わせの不足



から、時間がオーバーしていることを伝えられず、この時点で四十分近くタイムスケジュールが遅れました。反省会では今後、対応を確認することを話し合いました。

音楽・芸能

ブラスバンドの出演は、プログラム上二番目になっていたのですが、一週間前になって楽器の設定、撤去にかなりの時間がかかることが明らかになり、プログラムに入れ替えをしました。このことは、次の出演者「元気工房」の準備にかなりの影響を与えたと思います。

手話落語、パントマイムは、「芸」として素晴らしいものでした。拍手が鳴りやまなくて、感想には手話による「古典落語」が見たいという記述がありました。

団体展示

観客席の後ろに展示される市内各団体の展示は、今年もユニークなものがありました。障害を知っていただきたいという気持ちの表れでもありますし、来年には表彰して盛り上げてはどうかと提案してあります。

反省会の中でも細かい点の指



物品の販売は盛況でしたが、式典が終了してからはという意見がありました

摘がありました。参加者が多かったことや、内容的にバラエティーに富んでいたこと、物品の販売は盛況であったなど、よい点も指摘していただきました。

来年は、より多く障害のある人への理解が進むような取り組みをしていきたいと願っています。

実行委員長 浅輪田鶴子

今年も盛況 体験コーナー



バーチャル・ハルシネーションって、ナニ？

体験コーナーをどこにするか、内容をどうするかなど、実行委員会でも議論のあったところですが、昨年と同じ明るい部屋で実施することができました。統合失調症の急性期に見られる症状をリアルに擬似体験できる装置「バーチャル・ハルシネーション」は、昨年大好評だった



手話ができる人がふるといいなあ

たことから今年もまた、ヤンセン・ファーマーさんのご協力により設置することができ、精神障害者が日頃、どのような世界で苦しんでいるのかを理解していただける、よい機会となりました。当日市長の代理としていらした青木保健福祉局長は、以前保健所の所長さんで、早速体験をお願いをしましたところ、大塔福祉部長さんと一緒に、快く席に着いてくださいました。



はい、できました。いい顔してますね

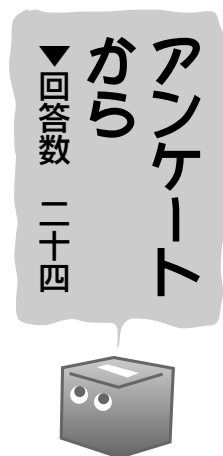
青木局長さんに体験後の感想をお聴きしましたところ、知識としてご存知のことと実体験とはかなり違っていたようで、シヨックを受けられたご様子でした。そして担当していたヤンセンの社員さんに、どのようにしたら貸用できるのかと尋ねていたらっしゃいました。この装置は、統合失調症の理解促進のための疾患教育のツールとして開発されたもので、目的にかなう所であれば、多方面に貸出されています。



ビーズの販売は毎年良く売れます。ボクは看板息子です。

他に、聴覚障害者団体による簡単な手話の体験コーナーや、あらい太朗さんによる似顔絵のコーナーがありました。顔をじつと見つめて、さーつと輪郭を描き、淡い色を付けるとあつという間に完成した我が似顔絵。しっかりと特徴をとらえているな〜と関心する反面、これが私？という感じも残りましたが、体験された皆さんは、それぞれに満足されたご様子でした。

実行委員 飯塚 壽美



回答していただいたのは、六十代の女性がいちばん多かったようです。昨年より観客数は増えましたが、アンケートの集まりが悪く来年はもっとみなさんに声かけをしていこうと思いましたが。

今回のイベントは楽しかったかという問いかけには、九割が楽しかったと答えています。

大原中学校吹奏楽部の演奏、笑草会の手話落語、つづいて水出智津さんの講演の順番になります。

手話落語は初めて見ましたが、表情が豊かでコミックマイムにはお腹を抱えるほど笑わせていただきました。耳の聴こえないハンディの中であんなに素敵な表情が持てるようになるのだと感じました。

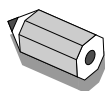
水出智津さんの講演では盲導

犬とともに子育てをしてきた経験を聞いて元気づけられた。という感想が多かったようです。

元氣工房さんも一生懸命さが感じられ、お世話する方の苦労が伺え、ご苦労様とみなさん感じたことでしょう。

やはり人気は物品販売だったようです。ほとんどのお店では売り切れ続出で、美味しいと評判でした。

以下に自由記述の感想を記します。



- 私は障害者交流センターのスポーツ・ボランティアをしています。県人がこんなに大活躍していることは知りませんでした。素晴らしい！
- スポーツで金メダルを頂いた方たちは、どのような障害を持っていてのか聞きたかったです。
- 幻聴・幻覚体験は初めてで驚

平成22年度「障害者週間」市民の集い プログラム

◎大ルーム (午前10時45分から午後2時30分)

式典

- 主催者挨拶
- 心の輪を広げる障害者理解促進事業表彰式
- 第10回全国障害者スポーツ大会結果報告会

イベント

記念講演 午前11時30分～
「珍道中の人生で見つけた幸せ!!
盲導犬がおしえてくれた幸せの3原則」

水出 智津 氏 盲導犬 ユザ

音楽芸能 午後1時～

- ブラスバンド さいたま市立大原中学校
- 音楽演奏 元氣工房バンド シナプス
- コミックマイム・手話落語
手話落語研究会 笑草会

◎その他

- 障害難病者作品展示
- 幻聴・幻覚体験 手話講座 似顔絵コーナー
- 授産自主製品等販売・模擬店
- 障害・難病者団体紹介展示

いたが、とても興味深いものだった。

かるとよいと思う。

- 盲導犬はおとなしい、偉い。
- 手話落語で古典落語をやってもらいたかった。
- 予算面で計画する方々、大変かと思いますが、規模うんぬんよりも心のこもった催しにして続けて頂きたい。
- 建物の中は賑わっていたが外は静かだった。イベントをやっているムードが外からもわ
- 時間の配分を上手くやってほしい。障害を持つている者には長時間は疲れる。
- 時間が延びたので最後まで見ることができず残念だった。
- 毎年来きているがイベントが楽しみ。
- 会場内が少し狭く感じた。(移動するときに他の方々とぶつかってしまう)
- これからも続けてほしい。

リレートーク わたしはわたし



●阿久津奉子さんプロフィール●
昭和20年8月8日、第2次世界大戦終戦の一週間前に生まれました。
上の息子は滋賀県で一家を構え、私は週末は下の息子と2人。趣味はのんびり読書かな。

本質はぐうたら母

さいたま市手をつなぐ育成会
阿久津奉子

突然の夫の死

平成七年十月、夫は通勤途中に倒れそのまま突然死という形で亡くなりました。自閉症親の会に関わり、精一杯息子のために活動していましたが、成人式を終えたばかりの、最重度の知的障害がある息子を残したまま逝ってしまいました。

新しい年を迎えて間もなく、与野親の会で会長をしていた浅輪さんから電話をいただきました。息子が中学生の時に、何かと相談にのっていただいたり、

知的障害の相談員として一緒に活動をしていました。

お悔やみの言葉をいただいた後の話にびっくり、一緒に親の会の仕事をして貰えないかと言われました。まだ気持ちも落ち着かないし、順番で回ってきた役員をするくらいなのでとお断りしましたが、引き下がって欲しません。早く電話を終わりにしたいと思いつつ後日お話を聞きましてと言ったのが運のツキでした。これが今も育成会で活動することになった経緯です。

息子は入施設に

息子は川越の入施設にいますので、地域の活動に余力を入

れていませんでした。

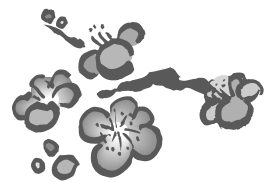
しかし、引き受けたからには、しっかりと取り

組みたいと考えいろいろ注文を出し、私流にやらせて貰える様に話し合いをして受けることにしました。

「活動していけば必ず自分の子どもにも結果として返ってくる」をモットーに、先輩の実践に学びながらここまでできました。

自分は上に立つより、サポート上手だと思っています。今後いろいろな形で育成会の方たちの活動をサポートし、次の若い方たちにひきつける様に、もう少し頑張ってみようと思っています。

もしかしたら、浅輪さんは落ち込んで私をみて、引っぱり上げてくれたのかも知れません。今は感謝！



事務局だより

障害者協議会で働きはじめて間もない私に障害者週間市民の集いは一番のイベントでした。

何もわからず、会議を重ねていきベテランのみなさんのパワーと知識に圧倒され一つずつ、少しずつ、仕事をしたいのが精いっぱいでした。

何カ月も準備をして、一日、あっという間に終わってしまいました。微力ながらも携わってきた私にも反省点ができて来年は…という思いもでてきます。一般の市民の方にもっと知って頂き、たくさん来てもらえるように来年も陰ながら頑張りたいと思います。

二十二年度も残りわずかとなりました。残り少ない事業を大事にしたいき、滞りなくすむよう協力していただけたらと思っています。

発行 さいたま市障害者

社会参加推進センター

〒333-0801

さいたま市大宮区土手町

1-11-11

大宮ふれあい福祉センター4F

TEL 〇四八・六五三・七二七一

FAX 〇四八・六五三・七三四一

http://www.saitama-planet.com/

e-mail saitamacity-handynet@

bz03.plala.or.jp

発行・編集人 浅輪 田鶴子